

2019年10月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年6月10日

上場会社名 アートグリーン株式会社 上場取引所 名  
 コード番号 3419 URL <http://www.artgreen.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 豊  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理部長 (氏名) 芝田 新一郎 (TEL) 03-6823-5926  
 四半期報告書提出予定日 2019年6月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年10月期第2四半期の連結業績(2018年11月1日~2019年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年10月期第2四半期	1,002	—	29	—	28	—	16	—
2018年10月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2019年10月期第2四半期 16百万円( —%) 2018年10月期第2四半期 —百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年10月期第2四半期	14.67	14.09
2018年10月期第2四半期	—	—

(注) 2019年10月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2018年10月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年10月期第2四半期	943	443	47.0
2018年10月期	—	—	—

(参考) 自己資本 2019年10月期第2四半期 442百万円 2018年10月期 —百万円

(注) 2019年10月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2018年10月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年10月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年10月期	—	0.00	—	—	—
2019年10月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年10月期の連結業績予想(2018年11月1日~2019年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,991	—	28	—	27	—	15	—	13.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 2019年10月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前年増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
(注) 詳細は、添付資料P.10「2(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年10月期2Q	1,128,000株	2018年10月期	1,128,000株
② 期末自己株式数	2019年10月期2Q	229株	2018年10月期	229株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2019年10月期2Q	1,127,771株	2018年10月期2Q	1,123,856株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があり、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(日付の表示変更について)

「2019年10月期 第2四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、第1四半期連結会計期間より、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、前年同四半期の数値及びこれに係る対前年四半期増減率との比較分析は行っておりません。

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益や設備投資の拡大に加え、雇用・所得環境の改善等により緩やかな回復基調で推移しました。一方で、長期化する米中間の貿易摩擦の世界経済に与える影響や英国のEU（欧州連合）離脱問題等、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

花き業界においては、東京都中央卸売市場の市場統計情報によると、2019年2月から2019年4月までの、らん鉢取扱金額は1,200百万円（前年同期比8.1%増）、数量では353千鉢（前年同期比6.5%減）と、取扱数量は減少したものの、取扱金額は増加したことにより、平均価格は前年同期比15.7%増という傾向で推移しております。

このような事業環境の中、フラワービジネス支援事業は、主力の法人贈答用胡蝶蘭の新規顧客開拓及び既存顧客への深耕営業により、売上は堅調に推移いたしました。

ナーセリー支援事業におきましては、昨年復興事業の一環として福島県葛尾村の農業再生支援を開始し、定期的な生産指導を継続して行っておりますが、2019年3月に執り行われました鴻巣花き市場の「2019年春季品評会」におきまして、葛尾村で生産されました胡蝶蘭『hope white（ホープホワイト）』が「埼玉県知事賞」を受賞し、昨年の復興大臣賞受賞に続く2つ目の栄誉を授与することが出来ました。

販売費及び一般管理費につきましては、岡山農場に係る費用の発生、本社移転による地代家賃の増加、人件費の増加、環境関連事業や植栽園芸事業に係る費用の増加等により増加いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,002,756千円、営業利益は29,354千円、経常利益は28,239千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は16,539千円となりました。

なお、当社グループの事業セグメントは単一セグメントであるため、セグメント情報は記載せず、主要な事業について記載しております。

#### (フラワービジネス支援事業)

フラワービジネス支援事業につきましては、新規顧客開拓の強化として、異業種参入支援業務における経費削減のビジネスモデルの導入提案や、既存取引先からのご紹介等による販売強化に注力いたしました。

以上の結果、フラワービジネス支援事業の売上高は709,736千円となりました。

#### (ナーセリー支援事業)

ナーセリー支援事業につきましては、国内提携農園の生産指導と経営支援の強化及び西日本エリアでの販売強化に向け、2018年11月に岡山県に開設しました岡山農場での胡蝶蘭生産に注力いたしました。

以上の結果、ナーセリー支援事業の売上高は229,771千円となりました。

#### (フューネラル事業)

フューネラル事業につきましては、引き続き既存取引先等からの紹介による新規顧客開拓の営業強化に注力いたしました。

葬儀業界の環境としましては、葬儀に関する潜在的需要は年々増加するものと推計されておりますが、大都市圏を中心に葬儀件数は増加する一方、葬儀の小型化や核家族化等により葬儀単価は減少傾向にあり、当社におきましても単価の下落傾向が続いております。

今後は地方都市におきましても同傾向が進むものと考えられますので、変化していく葬儀業界全体の環境に柔軟に対応していくために、引き続き既存取引先や葬儀業界関係会社との情報共有に取り組んでおります。

以上の結果、フューネラル事業の売上高は62,714千円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (総資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は943,565千円となりました。

流動資産は790,762千円となりました。主な内訳は、現金及び預金368,903千円、売掛金269,384千円、仕掛品108,611千円等であります。

固定資産は152,803千円となりました。主な内訳は、のれん30,044千円、投資その他の資産のその他に含まれております敷金及び保証金30,211千円、投資その他の資産のその他に含まれております保険積立金39,472千円等であります。

### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は499,749千円となりました。

流動負債は320,718千円となりました。主な内訳は、1年内返済予定の長期借入金116,610千円、買掛金73,203千円、1年内償還予定の社債20,000千円、流動資産のその他に含まれております未払金47,610千円等であります。

固定負債は179,031千円となりました。主な内訳は、長期借入金121,827千円、社債50,000千円等であります。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は443,816千円となりました。主な内訳は、資本金139,703千円、資本剰余金89,815千円、利益剰余金212,135千円等であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年10月期の業績予想につきましては、2018年12月6日公表の「連結決算開始に伴う連結業績予想に関するお知らせ」から修正は行っておりません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (2019年4月30日)	
<b>資産の部</b>	
流動資産	
現金及び預金	368,903
受取手形及び売掛金	269,384
商品及び製品	30,734
仕掛品	108,611
原材料及び貯蔵品	508
その他	21,378
貸倒引当金	△8,757
流動資産合計	790,762
固定資産	
有形固定資産	19,561
無形固定資産	
のれん	30,044
その他	6,181
無形固定資産合計	36,225
投資その他の資産	
その他	104,759
貸倒引当金	△7,743
投資その他の資産合計	97,015
固定資産合計	152,803
資産合計	943,565
<b>負債の部</b>	
流動負債	
支払手形及び買掛金	73,203
1年内償還予定の社債	20,000
1年内返済予定の長期借入金	116,610
未払法人税等	15,845
賞与引当金	14,098
株主優待引当金	437
その他	80,524
流動負債合計	320,718
固定負債	
社債	50,000
長期借入金	121,827
その他	7,204
固定負債合計	179,031
負債合計	499,749

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間  
(2019年4月30日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	139,703
資本剰余金	89,815
利益剰余金	212,135
自己株式	△446
株主資本合計	441,207
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	1,030
その他の包括利益累計額合計	1,030
非支配株主持分	1,577
純資産合計	443,816
負債純資産合計	943,565

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)
売上高	1,002,756
売上原価	568,341
売上総利益	434,414
販売費及び一般管理費	405,060
営業利益	29,354
営業外収益	
受取利息	39
受取配当金	67
持分法による投資利益	106
その他	221
営業外収益合計	434
営業外費用	
支払利息	670
その他	879
営業外費用合計	1,550
経常利益	28,239
特別利益	
受取出向料	1,775
特別利益合計	1,775
税金等調整前四半期純利益	30,014
法人税、住民税及び事業税	12,989
法人税等調整額	204
法人税等合計	13,193
四半期純利益	16,820
非支配株主に帰属する四半期純利益	281
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,539



四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)
四半期純利益	16,820
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	28
その他の包括利益合計	28
四半期包括利益	16,848
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	16,567
非支配株主に係る四半期包括利益	281

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 2018年11月1日  
至 2019年4月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	30,014
減価償却費	4,020
のれん償却額	770
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2,466
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,487
株主優待引当金の増減額 (△は減少)	△1,428
受取利息	△39
受取配当金	△67
支払利息	670
社債利息	81
為替差損益 (△は益)	215
持分法による投資損益 (△は益)	△106
営業保証金の支出	△150
売上債権の増減額 (△は増加)	△52,951
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△47,164
仕入債務の増減額 (△は減少)	10,449
前払費用の増減額 (△は増加)	292
未払金の増減額 (△は減少)	11,104
未払費用の増減額 (△は減少)	1,784
その他	△1,938
小計	△40,490
利息及び配当金の受取額	143
利息の支払額	△666
法人税等の支払額	△1,058
法人税等の還付額	5,447
営業活動によるキャッシュ・フロー	△36,624
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△4,313
定期預金の払戻による収入	1,800
有形固定資産の取得による支出	△5,974
無形固定資産の取得による支出	△885
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△25,119
敷金及び保証金の差入による支出	△3,263
保険積立金の積立による支出	△1,586
投資活動によるキャッシュ・フロー	△39,341

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 2018年11月1日  
至 2019年4月30日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	140,000
長期借入金の返済による支出	△49,395
リース債務の返済による支出	△444
社債の償還による支出	△10,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	80,160
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,194
現金及び現金同等物の期首残高	227,726
現金及び現金同等物の四半期末残高	231,920

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間において、合同会社日本プリザーブドフラワー協会の持分を取得し子会社化したことに伴い、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。	
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間より、四半期連結財務諸表を作成することとなったため、A&A株式会社を持分法適用の範囲に含めております。	

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	
税金費用の計算	連結子会社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年4月30日)	
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。	